

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和元年12月28日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670103573
法人名	医療法人 吉翔会
事業所名	グループホーム ゆうかり
所在地	鹿児島県鹿児島市吉野町5400番地1 (電話) 099 - 244 - 5481
自己評価作成日	令和元年12月2日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/">http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和元年12月18日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・医療法人の運営するグループホームで、同敷地内にクリニックがある。入居者様は訪問診療対応となっており、高齢である皆様に急な体調不良などがあってもすぐに往診にきていただいたり、必要に応じてクリニックでの検査を行う事が出来る。また、入院が必要な場合でも当院に病棟があるので、敷地内で必要な処置や治療を受けることが出来る。他総合病院との連携もあり、紹介などもスムーズに行えている。ホームのホール内は天井が高く、開放感があり広々としている。各居室内も十分な広さが確保されており、ご家族の急な宿泊を必要とする場合でも簡易ベッドを持ち込めるほどで、快適に過ごせる。敷地内には農園や花壇があり、季節の野菜や四季折々の花々など、見て楽しみ、作物を収穫して食することで、四季を感じることが出来る。年間行事の中には地域交流会の保育園慰問や、餅つきがあり、季節の外出ではお花見(桜・コスモスなど)、そうめん流しなどを行っている。法人内では年に2回の消防訓練や安全対策・感染委員会、接遇委員会があり勉強する機会を持ち、法人内で協力や連携をとる機会を作っている。毎週開催される全体朝礼では、隔週各部署が担当で研修報告や自分たちの思うことを発表する機会となっている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・事業所の法人母体が医療機関で同敷地内に有り、24時間医療連携体制で、入居者の定期的な訪問診療、健康状態の変化に応じて、適切な医療が受けられ、家族も職員も安心できる。  
 ・事業所理念が簡潔明瞭で、理念に基づくケア実践に努めている。  
 ・家庭的な雰囲気の中で穏やかに楽しく、安心して”家族”として日々生活している。  
 ・職員は入居者が、安心して生活ができるよう目配り・気配りを大事に入居者とコミュニケーションを図ることを心がけている。  
 ・食欲のない状態の入居者に意思を尊重しながら根気よく時間をかけて飲水できたことで入居者に笑顔が見られ職員全員で喜んだ事例を体験している。職員間で声かけし常に安全な介護方法を考えケア実践している。  
 ・法人代表、管理者は職員の意見を傾聴し、サービス向上やスキルアップのための研修を実施し、職員は日々自己研鑽しながら考えるケア実践に努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念の共有を行えていないことが多い。大きな項目で5つあるので、全てを毎日理解することよりも、1個/1日ずつ復唱する機会を設けたい。	理念は職員全員で見直しを行い、事務所に掲示している。毎朝申し送り後に努力目標と理念を1項目ずつ唱和し実践に繋げている。月1回のミーティングで振り返り、年度末に理念に沿った振り返りを行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	日常的な交流は出来ていない。地域の方がイベントの際にボランティアで特技を披露して下さったり、運営推進会議の際に交流はある。こちらから1回/年、保育園に出向くことはある。	地域の民生委員や地域の方が餅つきへの参加、踊り・コーラスなどのボランティアや中学生の職場体験学習を受け入れている。年1回保育園へ慰問したり、散歩時の挨拶で日常的に地域と交流している。家族や職員に認知症サポーター養成講座を開催し学習している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	地域に働きかけが出来ているわけではないが、施設見学がある際などは認知症について説明したり、他にどのような施設があるかを紹介している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中でその時々で必要な議題を挙げて、役員の方々にご意見をいただいている。	2ヶ月毎に会議を開催し、事前に議題を配布している。会議では入居者や職員の状況、事業所の取組などを報告し、意見交換している。大掃除と餅つきの同日行事等を話し合い実施している。	
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	地域包括支援センターの方に運営推進会議の参加を依頼している。市町村の方とは生活保護の方を中心に情報交換を行っている。	市担当者とは書類申請や報告等を行い、連携や協力関係を築いている。介護相談員との情報の共有を図り、地域包括支援センター職員には、積極的に状況を伝えながら相談するなど、協力関係にある。市主催の研修会に職員は参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	施設の施錠は、夜勤者が一人になる時間帯のみ防犯の意味で行っている。	法人主催の研修会や事業所での虐待防止などのテーマを決めての勉強会を年3回実施している。スピーチロックを含め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日中の玄関施錠はせず見守り支援を行い、外出希望者には散歩や隣棟に出かけ、安全な生活ができるよう支援している。	
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての資料やマニュアルがいつでも閲覧出来るようにしている。年間計画で勉強会を開くようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>権利擁護についての知識不足がある。現在、青年後見制度を利用されている方がいないので、いつ利用者が出ても良いように勉強していきたい。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約に関しては管理者を窓口としている。契約書の読み合わせを行い、疑問質問に丁寧に応えている。法改正などあった場合も契約書の取り直しを行うようにしている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>利用者様には日常から何かご要望はないかの声掛けを行い、ご家族へは家族会前の満足度アンケートなどを活用し、いただいた意見に対してホームの取り組みをご返答している。</p>	<p>利用者には日々の生活の中で積極的に声かけし思いを聞いている。家族には面会時や事前のアンケート調査終了後の家族会、運営推進会議等で意見や要望を聞いている。電話でも近況報告や毎月「ゆうかり便り」で利用者の現況報告をしている。居室の連絡ノートでも自由に記載し、意見や要望を表せる機会を設け運営に反映している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>運営についてはミーティングなどを利用し意見を挙げているが、管理者としてもっと職員の立場になり思いを汲み取る努力が必要である。</p>	<p>月1回のミーティングや各ユニットリーダーを中心に日々のケアの中で意見や提案を聞いている。個人面談では全般的に思いや相談など聞いている。人事異動についてや職員の思いに寄り添い、ケアの中で活かせるよう環境作りに努めている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>個々の職員の状況は、事務長や管理者を通じて代表者へ伝達している。やりがいを持ってということに対しては、もっと個別面談をして思いを聞く機会を作りたい。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>スキルアップの為に、法人内外への研修参加に対しては寛容である。なるべく多くの職員が研修に参加することを望んでおり、資格取得に向けてはより一層協力的である。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>吉野地域にあるグループホーム同士で『よかど会』を作っており、3か月に1度の会に参加している。その時々で必要なことの見聞交換を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメントで、生活の意向を確認し、これまでの生活歴などを参考に信頼関係を築ききっかけにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族にとって、大事な親族をお預かりするので、事前の聞き取りをしっかりと行い、これまでの生活となるべく変わらずいられるよう援助している。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期のアセスメント時は、その方にとってグループホームが合っているのか？も含めて聞き取りを行っている。必要があれば他のサービスの提案も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で、炊事、洗濯、掃除など入居者様の出来る作業であれば一緒に活動している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ご家族の中には、食事介助や移乗介助をされる方もいる。ご面会の時に、お茶の介助をしていただくなど声掛けをする場合もある。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>いつでもどなたでも面会に来ていただきたいことは伝えている。中には定期的にお寺参りをして、心の拠り所にされている方もいる。</p>	<p>入居時の情報をアセスメントし関係性を把握、家族や知人の面会時はお茶を出し、居室で寛いでもらっている。家族の協力で行きつけの理美容院や定期的なお寺参り・墓参り・買い物など関係が途切れない支援をしている。手紙や電話等を取次支援に努めている。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>性格が合う、合わないもあるので、見極めてホールでの座席を決めたり、定期的に移動するなど努めている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>亡くなったの契約終了が多いが、ご家族の中には定期的に訪問して下さる方や、自家製野菜を持って来て下さる方もいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	これまでの生活歴や職歴を含め、その方を理解出来るよう努力している。自分だったらどうして欲しいのか？という考え方に徹している。	日々の会話や行動から気づいたことを申し送りノートに書き留め、個々の思いや希望・意向の把握に努めている。困難な場合は元気な頃の好きだった物や歌など、家族に相談し、本人中心に検討している。基本的にリクライニング車椅子利用者など孤立させないよう寄り添い、思いなどの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前のアセスメントを行い、入居したことで喪失感にとらわれないよう、ホーム内で出来るサービスを心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人の意見だけではなく、沢山の職員の視点を活かし、多方面から現状を把握している。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>入居者様の希望をもとに、家族の意向を確認し職員同士意見を交換しケアに生かしている。1回/1か月はケアの見直しを行っている。</p>	<p>入居者・家族の意見や要望を聞き、主治医や訪問看護師・薬剤師からの情報からモニタリングは3ヶ月毎に行っている。現段階の体の動きについて6ヶ月毎に担当者会議で話し合い、現状に即した介護計画を作成している。状況変化時はその都度見直している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個別の申し送りノートに記載し、必ず勤務前に確認している。状態に合わせて職員同士で話し合い、意見を交換しケアを行っている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>入居者様の個別ケアを大事にしている。体調や気分に合わせて、食事時間をずらしたり、入浴日を変更する等、臨機応変に対応している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>主治医の往診や他専門病院（眼科、歯科、皮膚科）の往診を受けられ、訪問利用や介護タクシーなど利用している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>当法人の理事長が入居者様のかかりつけ医であり、主治医になっており、定期的な往診早急な治療が可能である。必要に応じて家族面談を行い、入居者様の状況や病態を説明し、本人や家族の意向を汲み取っている。</p>	<p>入居者・家族の希望を大切に、同敷地内の法人母体の医療機関が主治医で2週に1回の訪問診療と半年に1回の検査などで健康管理している。医療機関とは24時間連携体制である。歯科や眼科等はかかりつけ医の訪問診療もある。状態変化時は本人・家族に説明し医療機関への転院もあり、適切な医療を受けられるよう支援している。他科受診は職員が同伴し結果は電話報告をしている。</p>	
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>状態の変化や気付いたことは、こまめに看護師に報告している。必要に応じて受診をしたり、処置を受けるなど早期発見早期治療を心掛けている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院先としては、同敷地内の病棟が多いので、普段から情報交換や情報共有がやりやすい。毎日、病棟に訪問出来るので、こまめな状態把握に努めることが出来る。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>看取りを希望する方が多く、入居の際にも十分説明を行っている。看取りや重度化の契約書を交わすことで、こまかな説明をすることが出来る。</p>	<p>重度化や看取り介護についての方針が有り、入居時に説明し同意書を貰っている。段階的に終末期、看取りについて主治医からの説明を受け、家族と方針を共有しながら支援に取り組んでいる。広い居室に家族の協力を得て訪問看護師から職員には説明があり、看取りケアの支援をしている。看取り実績がある。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>普段から処置方法などは看護師に指導を受けることが出来る。訓練というかたちでは行っていないので、取り入れたい。</p>	/	/
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>2回/年 防災訓練を行っている。全職員が参加するわけではないので、避難マニュアルを確認しながら咄嗟の判断が出来るようにしたい。</p>	<p>法人内で年2回消防署立会のもと昼夜間想定で近隣住民の協力を得て火災時の消火訓練や防災機器の作動状況、出入り口の点検をしている。地震時のマニュアルも作成している。非常用として水・米・麺類・乾パン・ビーフン・缶詰類等、懐中電灯やガスコンロ・消毒備品等も備蓄している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>法人で接遇に関する取り組みを重んじている。入居者様の性格や生活歴を念頭に丁寧な対応を心掛けている。プライバシーが守られるよう、情報の出し方には注意を払っている。</p>	<p>法人主催の接遇研修や事業所での勉強会を実施し、排泄や入浴時の声掛け、ドアの開閉に注意し、入室時はノックし反応を確認する等、入居者に丁寧な対応を心がけている。入居者の呼称は事前に家族に確認しその人に応じて誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや洋服など自己選択できる環境作りをしている。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>意思表示の出来る方へは必ず確認し、思いや考えを尊重している。意思表示の出来ない方に対しては、元々の性格を念頭に表情や体調で思いを読み取れるよう努力している。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>起床時間、食事時間、おやつ時間、入浴時間など日課となっても、入居者様の状態に合わせてずらすことも多く、強制にならないように気をつけている。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している</p>	<p>ヘアスタイルや好みの衣類など、昔からの好みのスタイルに合わせるようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食材の下ごしらえをしてもらうことが多い。また、季節の野菜などに触れる機会を持てるよう工夫している。(つわ、よもぎ、芋ほりなど)</p>	<p>農園から旬の根菜類の芋・とうもろこし・トマト・ナス・胡瓜・柚などを収穫し、食卓に出している。肉魚の料理を取り入れ、その日の健康状態に応じた食形態や代替え食を提供している。下準備は残存機能を活かし、もやしのヒゲ取り、じゃが芋や玉ねぎの皮むき、下膳を職員と一緒にしている。行事食、誕生日食、敬老会はバイキング、そうめん流し、外食など、全員が食事が楽しみとなるよう工夫している。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事は毎食摂取量をチェックし、水分においては摂取が進まない方は個別でチェック表を作り、努めて飲んでいただけるように、ジュースやゼリーなどを提供している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後、口腔ケアを行っている。歯磨きやうがいの出来ない方は、口腔スポンジやガーゼを使い清潔にして、誤嚥性肺炎にならないよう気をつけている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居者様からのトイレ利用の訴え時や、訴えがない方は定時で誘導している。入居者様の排泄チェックを作成し、トイレ利用の間隔が空いていないか確認をして、排泄の促しや不快感のないように配慮している。	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、トイレ排泄支援をしている。便秘対策として個別にヨーグルトと牛乳、バナナなど多様に工夫している。リハビリパンツにパット使用時は尿量が多い場合、日中は声掛けを多く、夜間帯はパットの種類を工夫したり、ポータブルトイレでの排泄支援している。入居時オムツ使用だったが座れるようになり、自立に向けた支援に繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向の方には、朝一番に牛乳やヨーグルト、必要に応じてバナナヨーグルトなどを提供している。必ず排便の状況を確認して、腹満などで食思が低下しないように注意している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴日が決まっており、メンバーも決まっているが、体調不良や気分が乗らない時は、翌日に変更したり、清拭に変更している。	基本的に週2回のシャワー浴や入浴支援で時間帯は午前中である。希望に応じて時間帯の変更や同性介助、ゆず湯等で楽しめるよう工夫している。健康状態の変化や入浴拒否時、声掛けの工夫、翌日にずらしたり、全身清拭、自分専用の備品で足浴支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝・起床時間はそれぞれ違う。入居者様の意思確認を行って、無理のないように注意を払っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局さんが介入していることもあるが、必ずセット前確認、服薬前のダブルチェックを行い誤薬のないように注意している。内服の変更時も申し送りノートで共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌が好きな方、新聞や本など読書の好きな方、洗濯物を気にして動き回る方、散歩をして気分転換を図る方。その方に合わせて支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日常的と言われると出来ていないことが多い。例えば、自宅を気にされる方を散歩で支援したり、隣の棟に入居されているご主人に会いたい時にご案内するなどには行っている。ご家族が定期的にお寺や自宅へ連れ帰って下さる方もいる。	園庭には木や農園があり一緒に収穫したり、散歩や隣接の棟に出かけたり、買い物・テラスでの日光浴・お茶を楽しみながら外気浴等、工夫している。年間計画を基に桜の花見、秋にはコスモス見物、保育園に出かけての交流会、そうめん流し、家族参加の初詣、個別対応でのおはら祭り見物、家族の協力を得てお寺参り、理美容院、外食、買い物、外泊など、出かけられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>現在、お金を持っている方はお一人いる。在宅の頃からお礼に小遣いを渡す習慣があり、時々職員にも渡すことがあるので、ダブルチェックし本人用の出納帳に入金し、ご家族へ報告している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>ご自宅が気になったり、自分はいかにいいのか心配な時に、ご家族へ連絡を希望されるので支援している。手紙は戴くことはあっても、お送りすることはほぼない。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ホールは高い天井で開放感があり、太陽の光がよく入り心地よく過ごせているかと思う。畳のスペースもあり、洗濯物を仕分ける場所として使っている。ホールと台所が隣接しており、調理の音や匂いも感じることが出来る。職員が時期の花々を持ち込んでくれ、季節を感じることが出来る。</p>	<p>高い天井に大きな窓、ウッドデッキを設置し、採光も良く、温度・湿度も空調管理で居心地よく過ごせる環境である。ホールにはソファ、テーブルが置かれ畳のスペースもある。対面式のキッチンからは調理する音や匂いが有り生活感がある。季節の飾りや玄関には花を飾る等、居心地よく暮らしている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ホールの中には、畳スペースやソファがあり、どこでも過ごしていただけるようにしている。午睡をされない方がソファで下肢挙上をしている姿はよく見かける。</p>		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居の時に自宅で使っていたものを持ち込みしていただいている。状態に合わせて配置転換したり、撤去する場合もあるが、生活空間としての居場所を大事にしたいと考えている。</p>	<p>居室には、ベット、タンス、エアコンを設置し、寝具類は持込である。ラジオ、テレビ、テーブルセット、鉢植え、家族の集合写真、仏壇、手作り木彫像、自己の書道作品、壁取付の洋服掛け等、それぞれ本人や家族の好みを活かし生活しやすい居室となるよう工夫している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>手すりを設置することで歩行の手助けになったり、カレンダーがあることで日付が理解できる。季節の壁紙が飾ってあることで、季節を理解することが出来ている。</p>		

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない